

1、研究目的

本研究では奈良県葛城市における観光の現状と課題を探ることを目的とし、日々研究をしている。地域との連携を図り、そのうえで宮城ゼミでは、葛城市外での認知度調査や、葛城市で行われているイベントへボランティアとして参加するなどして分析をし、観光を中心とした地域活性化を模索している地域や企業が抱えている課題の抽出を行う研究を進めている。

2、研究対象

奈良県葛城市は奈良県中西部に位置し、大阪府と接する市である。(図1)近鉄阿部野橋駅から約40分、京都駅から約1時間半とアクセスしやすい。主な観光地は日本最古の官道といわれる竹内街道、大和七福八宝めぐりに数えられている当麻寺(図2)などが主にあげられる。



図2 当麻寺



奈良県 図1 奈良県地図 <http://expo.minnade.jp/nara.htm>

3、調査方法 アンケート調査

京都タワー前にて、奈良県外での認知度調査を行った。葛城市についての認知度調査を行った結果、あまり葛城市の認知度は高くなく、どのようにこれから認知してもらえるかという課題ができた。また、去年の葛城市のイベントに参加した人の年代と、地域別来客数を調べた結果、20代未満から30代は全体の16.9%と少なく、地域別来客数の多くは奈良県内が占めていた(図3、4参照)。

図3 葛城市認知度調査

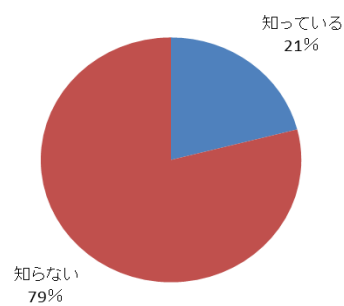
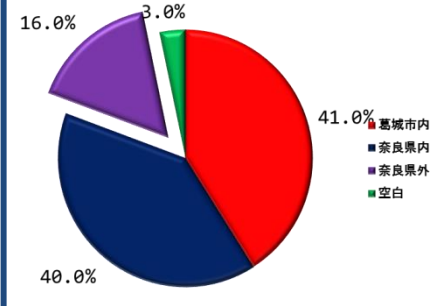


図4 地域別来客数



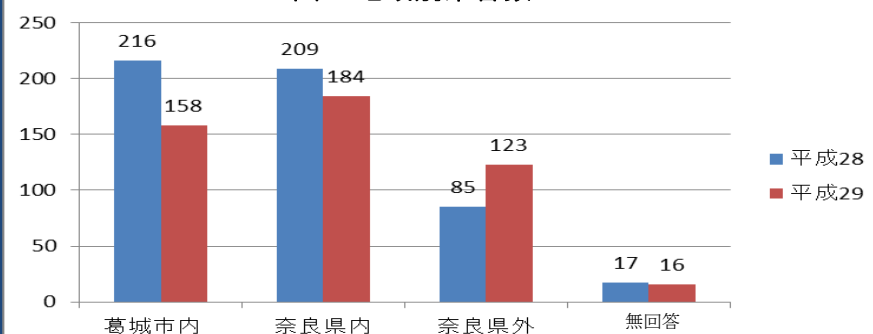
4、葛城山麓ウォーク

毎年11月23日に開催されている山麓ウォークが開催されている。約10kmのコースで7つの地区を巡り、歴史と自然を満喫しながら歩くイベントである。いくつか道の途中で収穫体験や特産品の販売やゲームができる場所があり、出店側として、宮城ゼミナールは相撲発祥の地ということで子供が体験できる紙相撲体験や、相撲の着ぐるみをきて写真撮影ができる体験を企画した。また、どうすれば参加者が増えるのか、京都タワー前、大阪商業大学など数回に分けてチラシ配布を行った。当日は、朝早くに多くの人が集まり、大盛況だった(図5)。参加者のアンケートを集計したところ、今年の参加者数は去年と比べて葛城市外から来る割合が増えた(図6)。しかし、いくつか課題も見つかった。スタート時に混雑してしまい、一気にスタートするため体験場所で待ち時間ができてしまった。いくつか分刻みで分けてスタートするなどの対策が必要だと感じた。



図5 イベントの様子 <http://www.maf.go.jp/kinki/tiki/nara>

図6 地域別来客数



5、考察

奈良県は観光資源はかなり整っているといえる。しかし、大仏や鹿のイメージが強いため葛城市の認知度は低い。葛城市は観光資源が豊富にあり、観光にも力を入れているため整備されているが、生かし切れていない。宿泊施設が少なく、隣の市までいかなければならないということもあり、日帰り旅行は呼び込みやすいが、遠方から来る宿泊をする観光客を呼び込むことが難しい。アンケート調査から、山麓ウォークでは奈良県外で参加者の割合が少ないため、まずは、葛城市の認知度を上げることが大切だと思う。山麓ウォークに若者を呼び込むためにはチラシ配りではなく、SNSを使い魅力を伝えることが若者を呼び込むことにつながっていく期待が持てる。

6、優秀賞受賞

9月4日に神戸山手大学にて関西観光コンソーシアム主催「学生活動成果報告会」でこの活動の成果を発表し、プレゼンテーション審査で優秀賞を受賞した(図7)。



図7 受賞写真

7、今後の課題

活動を通じて

- ① 来客者の多くが地域住民である。
- ② 若者の来客が少ないこと
- ③ 葛城市の認知度が低いこと

が課題として挙げられた。今後はなぜ葛城市の認知度が低いのか、どうすれば葛城市に来てもらえるか考え今回の課題を改善していきたいと思う。